

早期継承から法人化などの経営発展へ

経営継承までのプロセス

2002～2004年

後継者が農業大学校にて畜産を3年間学び、家業以外の収入を得るため削蹄師の資格を取得

2005年

後継者が就農（家業に入り、畜産及び稲作を担当）。並行して削蹄師の仕事を開始。先代経営者は兼業で施設野菜を担当

2011年

先代経営者が兼業から専業となる。顧問税理士との経営検討会（毎月開催）を開始（後継者同席）

2012年

家族経営協定に継承について記載

2013年

先代経営者が後継者に対して経営継承の意思確認（1回目）

2015年12月

先代経営者が後継者に対して経営継承の意思確認（2回目）し承諾

**かくして具体的に
継承の取組みがスタート!**

資産の継承等は顧問税理士や普及指導センターに相談



先代経営者／
小岩昭夫さん
(65歳)の場合

家族と従業員5人で稲作から酪農まで幅広く農業を展開。自身の経験から常日頃、スムーズな事業継承を考えていた。

- 収入金額：37百万円（2015年）
- 所得金額：2.5百万円
- 従業員数：家族専従者3名、
その他の従業者2名、
アルバイト4名
- 事業地：岩手県一関市
- 事業概要：農産物の生産
稲作、施設野菜（ナス）、
肉用牛（繁殖）
- 規模：繁殖牛20頭、田7ha、
牧草地8ha、ハウス30a

2016年1月

後継者が開業届、先代経営者が廃業届を提出し承認

2018年3月

法人化（株式会社KOIWA設立）

親から子に継承（親族内継承・個人）

継承内訳

人（経営権）の継承

- 後継者名義の開業届を提出。
- 【法人化後】
- 先代経営者は役員に就任。

資産（モノ・カネ）の継承

- 一部の農地及び施設・機械を生前贈与。贈与税は相続時精算課税を選択し、継承時の支払発生なし。
- 生物（経産牛）と棚卸資産（育成牛）は、売買契約書を締結。
- 【法人化後】
- 農地は後継者名義及び先代経営者名義とも、法人に有償賃貸。施設・機械等は、税理士が算定した減価償却費相当額で後継者及び先代経営者から法人に有償賃貸。

知的資産の継承

- 生産技術は当初から分業。
- 取引先は継承時に一覧表を作成して継続可否を検討。

継承後の経営発展と今後の取組み

後継者／（株）KOIWA代表取締役
小岩仁さん（38歳）

法人設立…2018年3月22日

※継承（2016年1月）後に法人化

売上高…60百万円（2021年）

経常利益…20百万円

従業員数…役員3名、正社員4名、アルバイト4名

事業概要…農産物の生産（稲作、施設野菜、露地野菜、作

業受託、肉用牛（繁殖）、削蹄

規 模…繁殖牛30頭、田21.6ha、畑1ha、牧草地26ha、ハウス30a、施設450㎡



地域内の農業者の高齢化などもあり、水田の作業受託が年々増加。地域全体の将来のことを考え、若者が長い間働ける環境を整備するため、経営継承の2年後に法人（株式会社）化。役員及び社員の社会保険加入はもちろん、休暇もしっかりとれる組織になったことで、若者も入社。既に将来の経営継承も視野に入れており、法人化したことで、第三者に経営を移譲することも容易にできるようになったと考えている。今後は社員の自主性を重んじた経営をすすめていく。

小岩家のケースから学ぶ経営継承あるある

登場人物



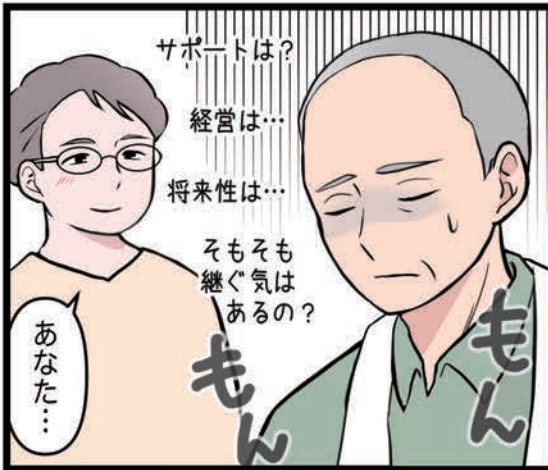
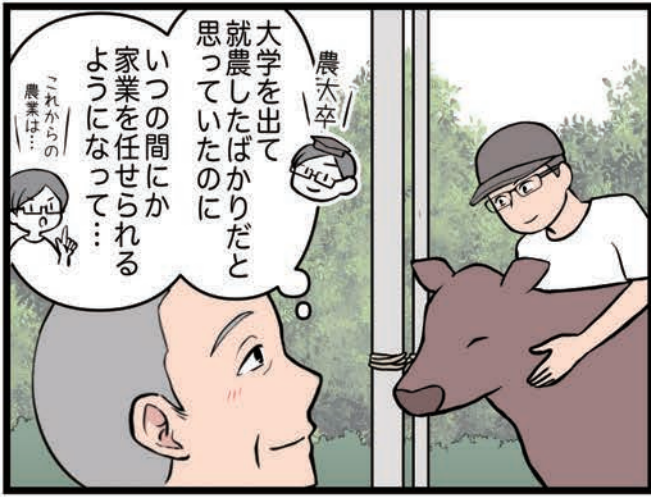
先代経営者の妻



先代経営者：小岩昭夫



後継者(息子)：小岩仁



グッドポイント①

先代経営者は経験上、「後継者が自ら書き真を過ぎ農業経営を進めていけるように早期継承すれば、その後もサポートできる」と考えていた。後継者が就農した時点から給与を支給し、継承を見据え、規模拡大も取り組んだ。そして、自分たちが苦労した経理業務は、会計事務所を活用した。

早めの対応がグッド!!



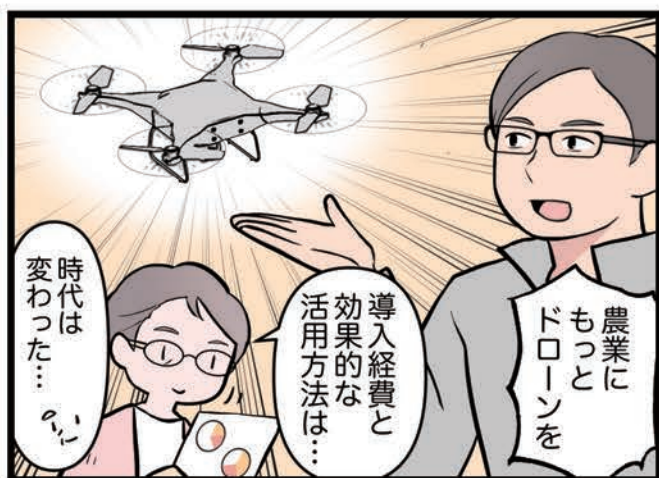
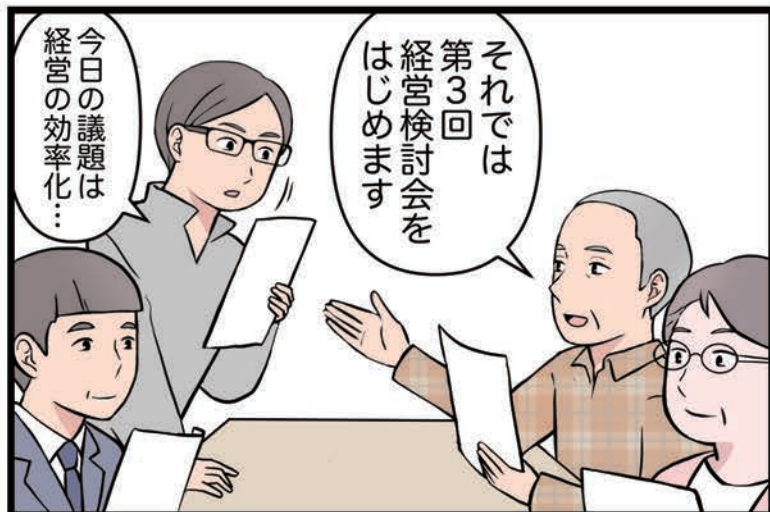


作業の
役割分担が
グッド!!



後継者が農業大学校で学んだ畜産部門と経験のある稲作を就農時点から担当し、先代経営者夫妻が施設野菜部門を担当。同時に部門毎に通帳管理を開始。継承後もその役割分担を維持し、部門毎に従業員の育成も行っており、栽培技術の継承がスムーズに行われた。

グッドポイント②



グッドポイント③

後継者が毎月の経営検討会に継承前から同席。後継者が経営の内情を把握し、今後目指したい経営を自身で考えるようになったことで、継承後の様々な経営発展のイメージがふくらんでいた。

後継者に
考えさせる
のがグッド!!



ケアポイント

先代経営者と後継者で生産部門別の役割分担をした場合、自らの担当分野以外の視点が弱くなる可能性がある。後継者は農業経営者として、経営全体を見ることがや先代経営者の生産技術を引き継ぐことも重要である。先代経営者の担当部門の経験も経営継承において必要なことである。

何事も
バランスが
大切!!



地域全体の将来を見据えた
経営を目指している

